

2026年10月

白井なおこ レポート VOL.33

日野・生活者ネットワークニュース 白井なおこREPORT 発行日：2026年10月25日
発行：日野・生活者ネットワーク 発行責任者：出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平2-3-12 中央日石ビル4階
TEL:042-514-8695 FAX:042-514-8697 E-mail:hino-net@cap.ocn.ne.jp



包括的性教育を公教育で実践し、子どもの学ぶ権利の保障を求める要請を、全国市民政治ネットワークの仲間とともに行いました(7月1日@参議院議員会館)



タブレット学習の弊害にも目を向けて 子どもの学びを考えよう

日野市は 20年前からICT教育に取り組み、5年前より一人一台端末を導入しました。しかし、それが子どもの学びとどう結びついているのかは、見えにくいと感じます。光と影の双方をきちんと見すえ、これからを共に考えていきたいと質問に挑みました。

もう一つの質問では、ナフサ不足を機に「脱プラスチック」を進める取り組みを提案しました。

世界ではデジタル教育の見直しが

子どもの脳は様々な体験を通してシナプス(神経細胞の接続)が形成され、言語や行動を獲得します。しかし幼少期から二次元の世界にいと、その発達に阻害されてしまうといひます。デジタル教育の先進国では、教育効果の確たる証拠がなく**弊害のほう****が大きい**と大人たちは判断し、アナログへの回帰が進んでいます。



事前に開催した学習会でも「はじめに ICTありき」ではなく「はじめに**子どもの成長・発達ありき**」で、10歳～12歳ぐらゐまでは使用を控えることが重要だと学びました。

日野市のこれまでとこれから

日野市は従来より、**子どもの発達に応じて段階的に**タブレットを活用しているといひます。とはいへ一律のルールはなく各学校の判断により、タブレット

の持ち帰りについてもまちまちです。学習以外の用途で使用しているから持ち帰らせないで、という保護者の声もあります。また、ここ10年で子どもの視力は著しく低下しています。

ICT教育は必要ですが、**4年生からの利用開始と持ち帰りは基本的にしない**よう、見直しを提案しました。教育長は「ICTは教育全般に関わるあくまで道具」と見解を示され、**デジタルと紙をバランスよく**取り組んでいくとのことでした。引き続き皆さんと考え続けていくことが、大切だと感じています。ぜひお声をお寄せください。

ナフサ不足を脱プラのチャンスに！

マイボトル・マイ容器の対応や、プラスチックに代わる容器(経木など)に協力してくれるお店を増やす取り組み、ごみ指定収集袋に**バイオマス**を配合することなど提案しました。

できることから、取り組んでいきましょう！



マイボトル・マイ容器の普及に取り組む団体の一例として紹介した「Refill Japan (リフィル・ジャパン)」のステッカーが目印です。

